

税金が救った命

東京都立富士高等学校附属中学校 3年 飯川 彩心

「入院ですね。」

お医者さんから放たれた一言が、私の胸に重く突き刺さった。目の前が真っ暗になり、私は言葉を失った。入院することになるなんて思ってもいなかったからだ。

私の病気は「神経性無食欲症」という。心理的要因などによって生じ、摂食行動の障害となって現れる精神障害であり、特にストレスによって起こることが多い病気だ。検査の結果によると、入院間近の私の心拍数は平均を大きく下回り、命の危険もあったらしい。

そのことを聞いた母は早めに病院に行ってよかったと安心していましたが、一方の私には入院生活や親元を離れることなど、様々な不安が一気に押し寄せてきた。その中で私が何よりも不安だったのは「医療費」だった。

私の伯父は体が弱く、よく入院をしていたのだが、伯父の見舞いに家族で病院を訪れたとき、精算所で驚愕の金額を目にしたことがある。そのとき私は医療費の高額さを知った。私の家庭はあまり裕福ではない。その為、私が入院することで両親に負担がかかってしまわないか心配で仕方がなかった。しかし、その不安は一気にかき消された。母から中学生までは医療費がかからないと聞いたからだ。

気になった私は医療費の税金制度について調べてみることにした。調べてみると、日本には「こども医療費助成制度」というものがあり、中学生以下は通院費用と入院費用が無料になるということ、そのお金は私たちが支払う税金から出されていることがわかった。私は税金という国民の支援のおかげで、こうして治療を受け、命を保つことができたのだ。

今まで私は税金なんてなければいいと思っていた。消費税がなければその分たくさん買い物ができるし、所得税がなければ収入が増え、家庭が裕福になると思っていた。しかし、今回の私のように支援を必要とする人がたくさんいる。その人たちを救う手段が税金なのだ。

私の将来の夢は医者になることだ。医者になって私のように病気で苦しむ人を救いたい。しかし、医者になることだけが患者さんを救うとは限らないと今回の経験を通して学ぶことができた。税金をきちんと支払うことで救える命はたくさんある。中学生の私にもできることは消費税を支払うことくらいだが、その小さな支援が多くの命を救うのだ。

私の症状はまだ完全に治っていない。毎日食事の時間が憂鬱で、泣きながら食事をする日々が続いている。しかし、私の命は私だけのものではない。たくさん税金という支援によって救われた国民全員が関わる大切な命なのだ。その為これからはその大切な命を絶やさぬよう、一生懸命病気と向き合い、強い意志をもって生活していきたい。また、嫌々税金を支払うのではなく、私の支援が誰かを救うことにつながると意識して税金を支払っていきたい。